

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか   |  |   |
|--|--|---|
| 実際に使用してみる  | 訓練の考え方として参考にする                               | 応用的に使用してみる  |
| 漢字と仮名、それぞれの特色を言語訓練に有効に取り入れていきたいと思えます。また、母国語である日本語への認識が改まりました(日本語は素敵ですね)。 | 失語症の訓練方法の例など学ばせて頂いたので、参考にまた訓練内容を考えてみたいと思えます。 | 専門学校の教員をしております。現場で理論と臨床について悩むように、養成校では講義と実習の間で悩む学生が多いように感じています。アナルトリーと音韻性錯語の違いなど、丁寧に教えていきたいと思えます。また、訓練では表記妥当性を考慮することが非常に重要と考えております。今回の研修で音韻、語彙のアプローチについての説明を頂き、大切さを再認識した次第です。訓練の工夫についての講義で伝えていきたいと思えます。構文についての内容は非常に興味深く聴かせて頂きました。貴重なご講演、ありがとうございました。 |
| 患者様への適切な難易度の訓練課題の提供に活用させていただきます。   | 失語症の方の評価、訓練方法の参考にさせていただきます。                  | 私は小児分野が専門です。認知神経心理学や理論文法の考え方に触れたり、日本語の特性を考え直したりする機会をいただき、心より感謝申し上げます。特に音韻回収や配列については、お子さんの課題点を考える時に何か結びついてきそうな気がしています。また、支援の考え方も大変参考になりました。支援内容やその順番を考える時に参考にいたします。  |
|  |  |   |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか   |   |  |
|--|---|--|
| 実際に使用してみる  | 訓練の考え方として参考にする                                | 応用的に使用してみる   |
| 日本語特有の言語様式に着目した言語情報処理モデルについて学ぶことが出来たので、今後の評価や訓練へのアプローチに活かしていきたいと思います。                            | 職場に戻り ST にフィードバック                             | 今の仕事は 99%が内科疾患の嚥下障害者へのリハビリなのですが、やはり ST のアイデンティティは言語なのだと改めて感じました。そのような意味合いから、嚥下障害のリハビリであっても対話を通して「食べる、食べていく (生きていく)」ことへのアプローチを行ってみたいです。 |
| 現在、SLTA の検査を行っており、検査結果から小嶋モデルに当てはめて、障害されているところの検討や訓練にいかしています。また実習生もきているので、早速小嶋先生のお話をお伝えしたところでした。 | 症状に合わせた介入方法や訓練方法を聞くことが出来、原点に戻り臨床に活かしたいと思いました。 |  |
| 失語症患者への訓練に活用していく。  | 認知神経心理学アプローチに基づいて、先生の訓練を参考にしたいと思います。          |  |
| 訓練方法を実際に試してみたいと思う。   | 語義失語と思われる症例の言語訓練について、改めて考えてみたい。               |  |
| 現在、発語失行の方の評価に悩んでいたのですが、明日からの臨床に活かしていきたいと思います。  | 失語症の患者さんへの訓練計画、アプローチ                          |  |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか   |   |            |
|--|---|------------|
| 実際に使用してみる  | 訓練の考え方として参考にする                                  | 応用的に使用してみる |
| 今回の研修に参加させて頂き、漢字から呼称を行える場合があることを知りました。色々な方法でできることは、患者様にも自分にも強みになると思うので、早速試してみたいなと思いました。  | 失語症の患者様を多く担当させて頂いてるので、訓練方法等参考にしたいと思います。         |            |
| 認知神経心理学的評価を十分に行い、患者様に適切な訓練プログラムを選択、効果的な練習を組み立てられるようにしていきたい。  | 失語症の患者様を多く担当させて頂いてるので、訓練方法等参考にしたいと思います。         |            |
| 認知神経心理学的評価を十分に行い、患者様に適切な訓練プログラムを選択、効果的な練習を組み立てられるようにしていきたい。  | 失語症リハビリの中でも特にリハビリしにくい日本語の構文について詳しく学習することができました。 |            |
| 刺激の提示速度や、刺激の種類、ヒントの提示レベルなど、再度見直したいと思いました。また、非音韻的表出教材について、もっと積極的に使用しようと思いました。lexiconについて、英語モデルでは辞書が特定の形式と結びついており、形式ごとに辞書が用意されている。という部分がうまく解釈できませんでした。 | 教えていただいた内容を臨床でも試してみながら、理解を深めたいと思います、            |            |
| 訓練方法はすぐに活用できそうです   | 訓練での考え方   |            |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか                       |   |            |
|--|---|------------|
| 実際に使用してみる                                      | 訓練の考え方として参考にする  | 応用的に使用してみる |
| 評価・訓練方法に活用させていただきます。                           | 重度失語の患者さん臨床に悩むことが多いです。重度例の失語症臨床について、段階的な訓練をお示しいただき、本当に参考になりました。また、普段の臨床で、自信が持てない訓練も多々ありますが、「これでいいんだ!」と、背中を教えていただける内容、逆に、「もっと工夫しなくては」と反省させられたこと、など、本当にさまざまなことを考えることができました。ありがとうございました。 |            |
| しっかり症状を見極め、適切な訓練プログラムの立案が出来るように見直して行きたいと思いました。 | 失語症の症状ごとの訓練を教えて頂きとても勉強になりました。臨床現場でも本日教わったことを活かせるよう頑張ります。  |            |
| 臨床で使用します                                       | 小嶋モデルを用いての症状分析、訓練立案が分かりやすく説明されており、実際の患者さんを前にした時に分析しやすくなったと思います。   |            |
| 担当患者の症状に合わせた、訓練選択をしたいと思う。                      | 回復期のため、小嶋モデルの部分は特に訓練など活用できそうでした。  |            |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか  |                |            |
|---|----------------|------------|
| 実際に使用してみる   | 訓練の考え方として参考にする | 応用的に使用してみる |
| <p>今回の研修にて、失語症について、改めて知見を深めることが出来ました。特に印象深い点は、仮名から漢字への変換、漢字の呼称的音読などの日本語の特性を活かした言語治療です。日本語の特性を勘案した言語処理モデルを活用し、様々な方向から患者様に合ったアプローチが出来るという日本語ならではの強みを今後の臨床の場で活用していきたいと考えております。大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございます。</p> |                |            |
| <p>文レベルの書字訓練における主語なし文の活用</p>  |                |            |
| <p>症状からどこに問題があるのかを考え、アプローチしていきたいと思います。学生や後輩指導にも繋げていきたいと思います。</p>  |                |            |
| <p>現在リハビリしている失語症者の訓練見直し</p>   |                |            |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか   |                |            |
|--|----------------|------------|
| 実際に使用してみる  | 訓練の考え方として参考にする | 応用的に使用してみる |
| 日本語の特性である漢字と仮名。音韻処理の有無（モーラの介在）を意識して、評価と訓練に活かしたいと思います。それと語義失語について、『意味記憶障害』について、意味記憶そのものなのか、そこと語彙辞書とのやりとりの問題なのか、丁寧にみていこうと思いました。          |                |            |
| モデルを使用しながら評価や訓練立案を行なっていきたい。  |                |            |
| 評価の分析と治療方針へ。   |                |            |
| 今の仕事は 99%が内科疾患の嚥下障害者へのリハビリなのですが、やはり ST のアイデンティティは言語なのだと思えて感じました。そのような意味合いから、嚥下障害のリハビリであっても対話を通して「食べる、食べていく（生きていく）」ことへのアプローチを行っていきたいです。 |                |            |
| 日常での臨床に活用していきたいです  |                |            |
| 漢字を用いた訓練立案   |                |            |
| 失語の臨床、評価訓練   |                |            |
| 障害構造の分析とアプローチ方法の検討   |                |            |

| 今回の研修の内容を臨床でどのように活用されますか  |                |            |
|---|----------------|------------|
| 実際に使用してみる   | 訓練の考え方として参考にする | 応用的に使用してみる |
| 失語症状に合わせて教えていただいた訓練の例や資料等を担当患者様を中心に活用していきたいと思っています。日常での臨床に活用していきたいです              |                |            |
| 失語症の患者様のリハビリに活かしたい。   |                |            |
| 職場で活用します。   |                |            |
| 今見ている患者さんの見直し   |                |            |
| 発語失行の患者様に対する確かな評価をして訓練をしていきたいと考えています。   |                |            |
| 認知神経心理学的側面に準じた見方、考え方を改めて理解することが出来たので、明日からの臨床へ活かしていけるように努めていきたいと思います               |                |            |
| 失語症状の纯粹例を再確認することが大切だと感じました。また、臨床現場では認知神経心理学モデルに基づいて症状を分析し、一人一人に合った訓練立案を行いたいと思います。 |                |            |
| 言語症状別にどのようにアプローチしていけば良いか学ぶことができました。実践したことのない訓練もたくさん学ぶことのできだったので実践してみようと思います。      |                |            |

